



# 第11回(通第37回)社員総会

令和4年6月3日(金)TKPガーデンシティ浜松町

## A. 令和4年度功労者表彰

(公益社団法人全国鉄筋工事業協会会長賞)

氏名	会員名	会員役職	所属会社 / 役職
武山 良一	宮城県鉄筋工事業協同組合	理事	(株)タケヤマ 代表取締役
坂口 昇	福井県鉄筋協同組合	理事	(有)坂口鉄筋 代表取締役
松田 昭人	愛知鉄筋業協同組合	前副理事長	マツダスツール(株) 代表取締役会長
佐藤 克志	島根県鉄筋工事業協同組合	監事	(有)サトーガス圧接 代表取締役会長
岩口 雅宏	広島鉄筋組合	副理事長	福井建設(株) 専務取締役

(敬称略)

## B. 議案

- 第1号議案 令和3年度事業報告、並びに会計決算報告 承認の件
- 第2号議案 令和4年度事業計画及び収支予算書 承認の件

## C. 講演 70分

「建設業技能労働者の処遇改善に向けて」

講師 国土交通省不動産・建設経済局 建設業課

入札制度企画指導室長 児玉 和久 様

「平成28年度税制改正法消費税法改正における、インボイス制度導入について」

講師 財務省主税局税制第二課

課長補佐 佐々木辰実 様

原 崇 様

## 褒章 黄綬褒章

岩田 正吾 様

(公社)全国鉄筋工事業協会 会長  
関西鉄筋工業協同組合 理事長  
正栄工業(株) 代表取締役社長



岑 直樹 様

(公社)全国鉄筋工事業協会 常任理事  
宮城県鉄筋工事業協同組合 理事長  
松永鉄筋工業(株) 代表取締役社長



## 組合紹介

### 東京都鉄筋業協同組合

昭和20〜30年代の復興期、鉄筋工業者は隅田川の外側の江東区、墨田区、江戸川区、葛飾区、足立区等に多く在住し、鉄筋材料を満載したトラックが両国橋、千住大橋等を渡り、東京中心部の復興に携わったと伝え聞いております。その後、市街化が拡大の一途を辿り、会員各社の周りにもマンションや民家が立ち並び状況に至りました。地域環境の変化により、鉄筋加工場から出る騒音等の関係で都内は本社機能だけを残り、活動の本拠を近県に移動された方々が多くおられます。一方、近県の鉄筋工業者の方でその地域の団体組織の運営が整わない時期に、一早く新しい中央の情報を知りたいとの希望で当組合に入会された方々もおられ、その結果、会員の建設業許可だけを見ても大臣許可8社、知事許可は東京都25社、埼玉6社、千葉6社、神奈川県4社、栃木2社、茨城1社の構成となっており、東京都鉄筋業協同組合は東京23区を中心に首都圏の各地域から会員が集まった集合体というのが実態です。

組合の主要事業は通常総会の外に会員全体が集まる定例会を隔月開催し、テーマを決め全員で意見交換すると共に年1回鉄筋技能大会を開催、また、全国の組合の皆様と同様に登録鉄筋基幹技能者講習の事務手続き、鉄筋技能検定の運営を始め、職長・安全衛生責任者教育や各種安全衛生教育を実施しておりますが、組合の就労人口が6千人を超えることもあり、現場で実際に働く技能者への労務管理指導も重要な仕事となっております。会員の方々の中には実働する技能者の過半数を協力

会社(二次下請業者)に委ねる会社も多く、それらの協力会社への指導も主要課題となっており、社会保険の適正加入、中小事業主・一人親方の労災保険特別加入、CCUS技能者登録の促進など多岐にわたります。最近では特定技能外国人を受入れるために関東8団体で(一社)関東鉄筋工事協力会社連合会を設立させましたが、会員の約6割を当組合会員の協力会社で占めることから外国人材への日本語教育、技術・技能教育、安全衛生教育も大きな課題となっております。

一方、組合では若手の職人育成を目標に、東京都建設人材育成事業への講師派遣、工業高校・専門学校への出前講座を毎年続けてまいりました。その結果、昨年度は工業高校生等が鉄筋技能検定組立て試験に挑戦し、2級3人、3級21人が合格しましたが、今後は若者の就職希望に繋がることが期待されます。

また、青年部会員が令和元年度に国土交通省他関係官庁が開催した「子ども霞ヶ関見学デー」へ、本年度は東京都の「ものづくり匠の祭典」へ参加し、小中学生の皆さんに鉄筋工事を見て親しんでいただく機会を増やす努力を行っております。さらに青年部分科会では「働き方改革対応の見積書作成」「柱頭納まり検討会」等を行って、大学との共同研究を開始するなど鉄筋工事の将来像への研鑽を始めております。

日本の首都としての東京、常に新しさを求め人々が集い、最先端の未来都市へと進化を続ける大東京の街並みを構築するため、そのインフラを整備する建設業の屋台骨を支える鉄筋工業者の組合として、東京都鉄筋業協同組合は責務を果すため一歩邁進していきたいと思っております。

# 各地区広報活動報告

## 広島鉄筋組合

令和3年12月14、16日に「職業訓練法人広島建設アカデミー」からの協力要請を受け、広島県立広島工業高等学校への出張教育へ参加しました。建築科2年生(2クラス)64名の生徒を対象に鉄筋・圧接、とび、型枠、左官に分かれ実施され、広島鉄筋組合は鉄筋を担当し講義、実技指導を行いました。

講義では図面を3D画像化したり模型を使った説明に真剣なまなざ

しで聞き入っていました。実技指導では当日あいにくの雨で室内での作業となりましたが、初めて手にするハッカーと結束線に苦戦しながらも、組立作業に一生懸命取り組む姿に我々も初心を思い出しました。

毎年実施されております出張教育ですが、今後も積極的に参画し指導する側も内容を創意工夫し、鉄筋工事の魅力を次世代の若者に伝えていければと思います。



## 熊本県鉄筋工事業協同組合

### 技能フェアin八代参加

技能フェアin八代が開催され、熊本県鉄筋工事業協同組合として、八代地区の組合会員会社の鉄筋技能士と組合青年部技能士で協力開催を行いました。

フェアは大盛況で、現場で仕事しているプロの鉄筋技能士による結束体験や、スパーサーを使用してのキーホルダ制作、また全鉄筋より購入した一級鉄筋施工技能試験用の鉄筋組立ミニモデルを展示して一級鉄筋施工技能士を受験するための難関を説明、また子供たちや一般の人達に鉄筋工事の仕事を理解していただけるよう活動いたしました。他業種の技能士団体からも熊本鉄筋組合青年部のチームワークを絶賛され次回でのコラボレーションの話も出ました。

コロナ感染防止対策中の活動の為、会場内は大幅な入場制限(1回につき8名入場×8回)がありましたが、来場者の皆さんからは当鉄筋組合のコーナーへの評価を多数いただきました。

この活動が、未来の技能士育成の一環となることを期待し、今後も青年部技能士と共に後継者育成活動を推進します。

令和4年6月 熊本県鉄筋工事業協同組合 理事長 中村 隆



と力強く話してくれた。橋本さんの今の目標は、女性の取得者が少ない「登録基幹技能士」資格を取ることに。「実務経験10年以上」という条件をクリアするまであと2年だが、

「男性にも負けないように頑張る。鉄筋を担ぐだけが仕事じゃない。特に段取りすることは、女性でもできる。仕事の中に女性でもできる作業はたくさんある。」と女性ができない仕事ではないと力強く話してくれた。

職長としても活躍する橋本さんは、「男性にも負けないように頑張る。鉄筋を担ぐだけが仕事じゃない。特に段取りすることは、女性でもできる。仕事の中に女性でもできる作業はたくさんある。」と女性ができない仕事ではないと力強く話してくれた。

橋本さんの鉄筋工歴は8年。外仕事をしたくて、たまたま選んだのが鉄筋の仕事だったという。この仕事の魅力を尋ねると、「鉄筋は外からは見えないけど建物を支えている重要な部分。正確にきれいに組み上がった時に褒められると嬉しい。様々な形状の鉄筋を自分なりに考えて組み上げていく作業が上手くいくと楽しい。とにかく組むのが楽しい。」と、この仕事が大好きなことが伝わってきた。

野島小諸市、横山幸広社長)の橋本美樹さんが出場した。女性選手は、第2回大会に続いて2人目となる。出場に向けて「1ヶ月ほど前から徐々に練習を始め、1週間前からはびっしり特訓した」という。組み上げるスピードが速い男性陣に対して「組立時間で競うよりも減点を減らすように心がけた」という作戦で長野県代表の座を勝ち取った。

長野県の代表選手として、横山鉄筋工業(長野県)の橋本美樹さんが出場した。女性選手は、第2回大会に続いて2人目となる。出場に向けて「1ヶ月ほど前から徐々に練習を始め、1週間前からはびっしり特訓した」という。組み上げるスピードが速い男性陣に対して「組立時間で競うよりも減点を減らすように心がけた」という作戦で長野県代表の座を勝ち取った。



長野県の代表選手として、横山鉄筋工業(長野県)の橋本美樹さんが出場した。

# 第4回 TETSU-1 GRAND PRIXに女性技能者が参戦



女性活躍推進WG取材

あと2年を続けることができるのか不安な思いがあるという。女性の場合、結婚や妊娠・出産がハンデとなる。妊娠したら現場作業も加工もできない。プランクが空いてしまうかもしれない。「続けられるならずっと続けた」と願う橋本さんのような女性技能者が活躍していくためには、不安要因を解消した環境作りには、早急に取り組んでほしいと願う。

競技の結果は、残念ながら入賞とはならなかったが、女性ならではの美しい組み上がりに「きれいだったよ」とたくさんの方から声をかけられている様子が印象的だった。男性陣の中で果敢に挑戦した橋本さんの姿はとてつもなくよく、「女性でもできる」を証明したと思う。今後、女性技能者たちを牽引する存在となっていくであろう橋本さんこれからも応援し続けたい。

最後に「現場は、最初はこわいかもしれないけれど、努力次第で認めてもらえる。頑張れば、女性にだってできる仕事です!」と女性たちへのメッセージを贈ってくれた。

トピックス

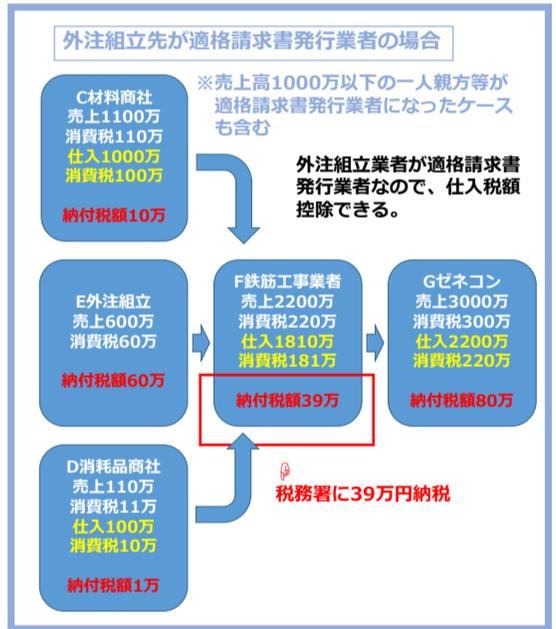
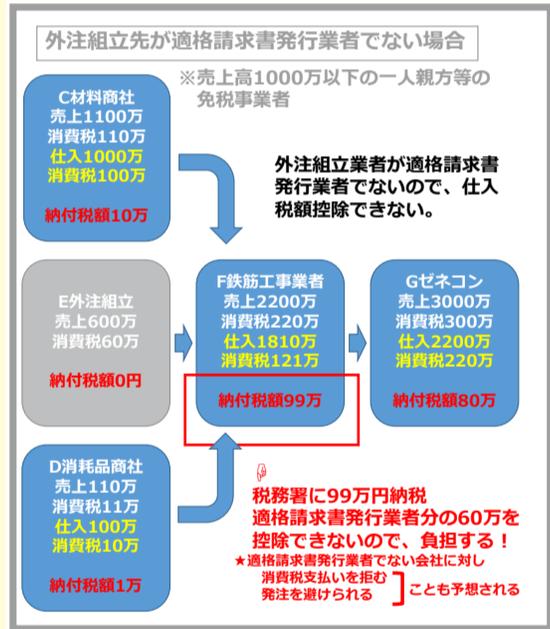
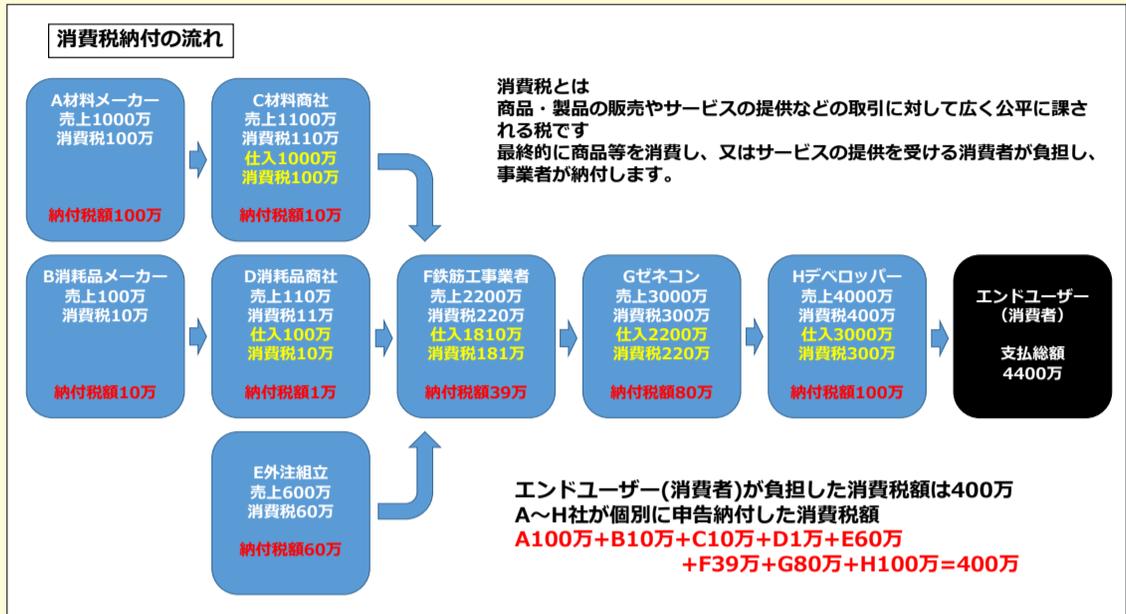
インボイス制度について

2023年10月から導入されるインボイス制度とは、正式には適格請求書等保存方式といい、適用税率や消費税額などが記載された適格請求書を交付・保存する制度です。

この制度のもとでは、事業者が「消費税の仕入税額控除」を受けるための条件として、

①インボイス（一定の事項が記載された請求書や納品書などの帳票）と、②帳簿の2つを保存する必要があります。

このインボイスを発行できるのは、適格請求書発行事業者だけとなります。適格請求書発行事業者になるには税務署へ申請して登録を受けなければなりません。登録は課税事業者しか行えないため、免税事業者のままでは適格請求書発行事業者になることができない（＝インボイスを発行できない）ということです。



【消費税額の計算方法】 課税売上に係る消費税額から、課税仕入れ等に係る消費税額を差し引いて（「仕入税額控除」という）計算する。

【計算方法】 (消費税額) = (課税売上に係る消費税額) / (売上税額) - (課税仕入れ等に係る消費税額) / (仕入税額)

★仕入税額控除

詳しくは、こちらで確認ください。

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice.htm>



特定技能外国人が一級鉄筋技能士に

章超録さんは、2018年に技能実習生3号で当社に入社し、2020年に特定技能1号に移行しました。当社は、特定技能1号の申請等は、取次者の資格を取得した従業員が在籍している為、支援等は一切受けずに、すべて自社で対応しています。章さんは、当社に入社した時から作業現場に於いて技術力・安全・品質への意識の高さは、当社が技能実習生の受入れを、平成5年から行い29年の歴史の中でも、群を抜いた存在であります。明るく温かな性格から他の外国人実習生や建設就労者のリーダーとして当社の技能後継者と

しても期待しています。彼は特定技能2号になって家族を日本に呼び、一緒に暮らしたいという強い思いがありました。2号への移行には、1級鉄筋施工技能士とCUCUSのレベル3が必要になります。まず、1級鉄筋施工技能士の資格を取得するために、実技試験の練習や慣れない日本語での学科を勉強する姿は若手の日本人社員にもいい影響を与えています。日本人でも合格の難しい国家試験に、学科・実技とも見事一回で合格しました。これまで積み上げてきた努力の証であり、誇らしく思います。

今後は、現場で職長として活躍してもらい、技能実習生への指導及び教育にも携わってもらいたいです。マツダスタイル(株)にとって、欠かせない人材であり、今後も彼のような優秀な外国人を指導して育成したいと思っています。マツダスタイル株式会社 代表取締役 松田 稔

私は中国浙江省から来ました章超録と申します。日本に来て10年になります。全国鉄筋工事業協会及び鉄筋会社の皆様のおかげで、鉄筋施工の技術、安全に対する意識、品質に対しての取り組みなどを教わりました。10年間、各現場で施工経験を積み重ね、一級鉄筋施工技能検定に挑戦し合格する事ができました。難しい日本語、専門用語も周囲のサポートがあり、自分自身の成長につながったと思います。職長・安全衛生責任者教育も受けた事で、その期待に応えられるよう貢献し、鉄筋工の職長として指導できるよう初心を忘れずに頑張ります。中国に滞在している家族を呼びよせる為に、これからも会社の一員として一生懸命努力し、家族と共に日本でも暮らせるよう日々励んでいきます。

編集後記

コロナ感染対策に重きを置き、活動の自粛が続けていましたが、最近ではしっかりとした感染対策を行ううえで活動を始める動きがみられるように思います。

山口県でもイベントは中止になる事が多く、学生へのPR活動が難しく新規入職者の期待が持てず暗い雰囲気立ち込めていましたが、今年度は感染対策をしっかりとしたうえで活動をしようという事で、6月には高校生向けに建設業に特化した「やまぐち建設産業魅力発見フェア」を開催しました。久しぶりの開催という事もあり学校との調整も難しい中、農・工学科高校6校、私立高校1校、生徒数260名の参加となりました。専門工事業の体験や県内企業の説明会も一挙に行いましたが、直接生徒さんに会うと私たちが元気をもらう気がしました。直接体験する事で、イメージが変わったという意見を頂くことが多くあります。専門業種はイメージしにくいのが難点ですが、こうした体験を通して少しでも就職先の検討業種の1つに建設業が選ばれるようになる事を願い、これからも活動を続けていきたいと思っています。

編集委員

- 委員長 宮本 直樹 (宮城)
- 副委員長 宮本 裕子 (山梨)
- 委員 木浪 裕子 (北海道)
- 松本 茂 (東海)
- 工藤 桂一 (神奈川)
- 松本 桂一 (静岡)
- 田浦 真一 (関西)

宮本 裕子